

# ぐるり30

～自治調査会だより～

2015

1

No. 016

[発行日]

2015.1.1



【写真提供】三鷹市 【撮影場所】三鷹の森ジブリ美術館（三鷹市下連雀 1-1-83 日時指定の予約制）©Museo d' Arte Ghibli

## ▶ 多摩交流センターだより

- ・多摩交流センター開設20周年記念事業 体験型イベントの実施報告  
足で知る多摩の魅力ガイドウォーク ..... 2  
第18回 多摩の歴史講座 ..... 3
- ・多摩発・遠隔生涯学習講座 ..... 4
- ・東京雑学大学講義案内 ..... 4
- ・広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介 ..... 5  
ひのはらの魅力発見！ー払沢周辺クイズチャレンジ!!  
八王子市民吹奏楽団 ファミリーコンサート in ひの
- ▶ オール東京62市区町村共同事業 みどり東京・温暖化防止プロジェクト  
・福生市「花いっぱい運動」 ..... 6

## ▶ 平成25年度調査研究報告書紹介

- 「市町村における公文書管理方法に関する調査報告書」..... 7
- ▶ 自治調査会の調査研究を振り返る～最近のトピックスとの関わりなど～ ..... 8
- ▶ 調査研究報告書の活用に関するアンケート結果 ..... 9
- ▶ 編集後記 ..... 9
- ▶ とっておきスポット～「ココ」ご存じですか？～三鷹市 ..... 10

Contents

1月の内容

公益財団法人

東京市町村自治調査会



## 多摩交流センターだより



### 多摩交流センター開設20周年記念事業

### 体験型イベントの実施



平成26年7月1日、多摩交流センターは開設20周年を迎えました。

これを記念して、「武蔵野台地と水」をテーマとした体験型イベントを実施しましたので、その様子をご紹介します。

## 事業1 足で知る多摩の魅力ガイドウォーク

コース  
1

### 『平成の名水百選』 落合川・南沢湧水群を歩く

10月18日

東久留米市は古多摩川の作った扇状地上に位置し、地下には多量の地下水が流れているため、武蔵野台地の中でも湧水が豊富な所です。本コースは、環境省が平成20年に選定した「平成の名水百選」に、東京で唯一選ばれた同市の落合川・南沢湧水群を中心とした約8kmを約5時間かけて、日本ウオーキング協会上級指導員をガイド役に歩きました。参加者は39名。黒目川や落合川の川べりでは、東京の町中を流れる川とは思えない程澄んだ流れに驚きの声が聞かれました。また、竹林公園や南沢湧水地では、崖下から清らかな水が豊かに湧き出る様子を見ることができました。参加者からは、「水辺のある風景は気持ちがいい」「東久留米市がこんなに湧水に恵まれた所ということを知って良かった」「距離・時間も丁度よく、多岐にわたる話がきけた」などの感想をいただきました。



▲竹林公園 湧水の池

コース  
2

### 玉川上水の 歴史を紐解く

10月28日

玉川上水は、人口の増えた江戸の水不足を解消する目的で1654年に玉川庄右衛門・清右衛門兄弟が完成させました。多摩川の水を羽村の堰から引き込み、四谷大木戸までの43kmを、わずか約8か月で開削したといわれています。玉川上水は途中多くの分水が引かれ、水の乏しい武蔵野台地の開発にも大きく貢献しました。本コースは、当センター登録団体「歴史の道を歩く会」会員をガイド役として、参加者37名が約5時間かけて玉川上水駅から小金井橋までの約8.5kmを歩きました。かつて多摩川から引かれた水を満々とたたえた当時の玉川上水の写真や、明治初期に2年間だけ許可された船による物産運送の様子など、興味深い資料やガイドからの解説に、参加者は熱心に耳を傾けていました。「玉川上水の歴史に触れることができた」「玉川上水にかかる橋の名の由来を知ることができ有意義だった」「玉川上水の緑が美しかった」などの感想をいただきました。



▲玉川上水 船溜り跡（船着場）

本ガイドウォーク「足で知る多摩の魅力」では、文字通り「足で歩いて」、「多摩の魅力」を再発見していただくことを目指しました。普段私たちが暮らしている多摩にも地域ごとの特性があり、見慣れた光景を改めて見ると「新しい魅力」が発見できたと思います。多摩交流センターは今後も、多摩に眠るたくさんの魅力を発信できるよう努めていきたいと考えています。

## 事業2 第18回 多摩の歴史講座

本紙8月号(No.011)で募集した「第18回 多摩の歴史講座」(当調査会・たましん地域文化財団共催)は平成26年9月26日から11月21日にかけて隔週金曜日に全5回の講座を開催し、40歳代から80歳代の100名を超える多くの受講生の皆様にご参加をいただきました。

この講座は、本年度の多摩交流センター開設20周年を記念するイベントのひとつとして、記念事業のメインテーマ「武蔵野台地と水」を考察するために、玉川上水とその分水にスポットをあてて実施したものです。

第1、2、3、5講は国分寺労政会館で、第4講の見学会は三鷹市の大沢の里水車経営農家(新車)と周辺の史跡を見学しました。



▲毎回、充実した講座でした。

### 第1講 (9月26日)

「玉川上水の分水の利用—江戸時代から近代—」では、産業考古学会理事の小坂克信氏から、玉川上水の分水の成り立ちや歴史について、築樋(つきどい)等の分水路の工夫にもふれた総論的な講義をいただきました。飲料水、生活用水、田用水や水車の動力源など、さまざまに利用されていた分水について興味深いお話を聞くことができました。

### 第2講 (10月10日)

「武蔵野台地の河川と水環境」では、青梅市文化財保護指導員の角田清美氏より、武蔵野台地上の河川を「狭山丘陵」「台地上の任意の場所」「台地周辺の段丘崖」ごとにそれぞれの源流の特徴や武蔵野台地形成の歴史を本講座のために作成した地形・地質の図面をもとに解りやすく講義をいただきました。

### 第3講 (10月24日)

「多摩の水車のしくみと歴史、千川・三田用水の利用」では、第1講の講師、産業考古学会理事の小坂克信氏に再登壇いただき、精密な水車のしくみについて峯岸水車の貴重な動画を用いて「水輪(みずわ)、杵、搗き臼等」の説明をしていただきました。さらに、多摩の水車の歴史や水車の魅力についてもお話を聞くことができ第4講見学会の基礎知識を得られる講義でもありました。また、千川・三田用水の水利用の歴史についても解説をいただきました。

### 第4講 (11月7日)

見学会「大沢の里水車経営農家(新車)と周辺の史跡を訪ねる」では、三鷹市の「新車(しんぐるま)」と呼ばれ、東京都の有形民俗文化財の指定や日本機械学会から機械遺産の認定を受けている峯岸家の水車についてボランティアガイド(市民解説員)による解説を受けながら、母屋、水輪や水車装置等の見学をしました。また「出山横穴墓群8号墓」「龍源寺」「近藤勇生家跡」など周辺の史跡も訪ねた有意義な見学会でした。



▲「大沢の里水車経営農家(新車)」見学

### 第5講 (11月21日)

「分水の現状と今後—熊川分水—」では、福生市文化財保護審議会委員の吉江勝広氏より、「熊川分水」敷設のエピソードや玉石積の水路、私有地に流れを持つなどの特徴を多数の写真を用いて説明をいただきました。また、国の史跡である玉川上水からの分水をどのように次世代に継承すべきか今後のあり方にもふれた講義でした。

今回の歴史講座でご講義いただきました講師の先生、参加されました受講生の皆様に厚くお礼申し上げます。次回も皆様の興味を引く講座を計画しますのでご期待ください。

インターネット  
放送による

## 多摩発・遠隔生涯学習講座

NPO法人全国生涯学習ネットワーク・公益財団法人東京市町村自治調査会共催  
後援：武蔵野市教育委員会

## 1・2月予定の講座案内

## 131回

日時 平成27年1月8日(木) 14:30から約1時間

題名 地域と生涯学習～市制100周年へのチャレンジ

講師 間宮 章 氏

(八王子生涯学習コーディネーター会名誉会長)

内容 私どもが活動の基盤としている八王子市は、平成29年度に多摩地域で初めて市政施行100周年を迎えます。この100周年にあたり、新しい市民意識の創生を目指し、生涯学習をベースとした記念事業の展開を、協働で実施する提案をしています。市民の多様な発想を盛り込んだ記念事業に向けてのチャレンジを、具体事例をもとにレポートします。

## 132回

日時 平成27年2月12日(木) 14:30から約1時間

題名 日本画って何？

講師 伊藤 正次 氏(日本画家(日展特選受賞、現在日展会友)、多摩美術大学絵画研究科修了)

内容 日本画の展覧会場で「日本画って何ですか?」という質問を受けることがあります。その折には、「画面に顔料をくっつけているメディウムが違います。油絵は顔料を油で、日本画は顔料を膠で接着します」と申し上げます。でも、その説明は正確ではない。いえ、かなり怪しいのです。さあ、「日本画って何?」と一緒に考えてみませんか。

○受講料 無料(ただし資料代100円)

○メイン会場 多摩交流センター 第2会議室(申し込みは必要ありません。直接会場にお越しください)

○サテライト会場 武蔵野市かたらいの道(1月8日)、武蔵野スイングホール10階スカイルーム1(2月12日)

○ライブ中継・VOD視聴について

多摩発・遠隔生涯学習講座のホームページ(<http://zsgn.dp-21.net/tsgn/>)から無料で、当日の講座の視聴(ライブ中継)や過去の講座を視聴(VOD視聴)することができます。

問合せ先:TEL 080-3427-9848(高原) TEL 0422-52-0908(菅原)



特定非営利活動法人

## 東京雑学大学

## 2月講義案内

(会員は受講料無料・会員外は2月12日を除き、1回につき500円)

番号	日時	講義テーマ	教授	教場
第975回	2月5日(木) 14:00から	雑誌『暮しの手帖』のテスト(仮題)	加川 厚子 氏 (『暮しの手帖』元編集者)	西東京市民会館 (西武新宿線田無駅北口 徒歩7分)
第976回	2月12日(木) 14:30から	日本画って何？	伊藤 正次 氏 (日本画家(日展特選受賞、現在日展会友)、 多摩美術大学絵画研究科修了)	遠隔視聴(サテライト)会場 武蔵野スイングホール10階スカイルーム1 (JR武蔵野駅北口 徒歩1分)
第977回	2月19日(木) 14:00から	音読とコミュニケーション(仮題)	高野 正美 氏 (詩人・フリーライター)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)
第978回	2月26日(木) 14:00から	大河紀行 荒川～秩父山地の水源地から東京湾まで180余キロ踏破記録	伊佐 九三四郎 氏 (紀行作家・登山家)	田無公民館 (西武新宿線田無駅南口 徒歩3分)

☆申し込みは必要ありません。直接会場へお越しください。

[問合せ先] TEL 042-465-3741 (浅田) TEL 0422-52-0908 (菅原)

# 広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

## ひのはらの魅力発見! - 払沢周辺クイズチャレンジ!! -

**日時** 平成27年2月1日(日) 10:00~15:30

**場所** NPOのお店四季の里 ログハウス内 払沢の滝入口バス停 徒歩5分

**内容** 東京都で島しょ部を除いて唯一の村「檜原村」にある、東京都に1つしかない日本の滝百選に選ばれている滝「払沢の滝」。檜原村や、払沢の滝のことをみなさんはどれくらい知っていますか?

冬には凍り、夏にはライトアップされる払沢の滝を中心に、檜原村の魅力を集めたクイズを作って、2月1日に檜原村にある地産地消のお店「NPOのお店四季の里」のログハウス内にて挑戦者を募ります! 参加賞もあるので是非来てください!

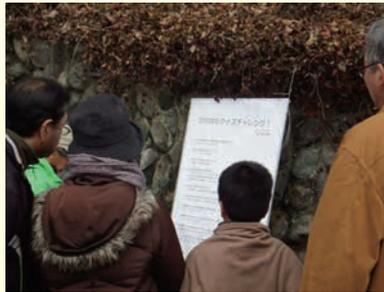
**参加費** 無料

**【主催】** ひのはら魅力発見隊

**【問合せ】** ひのはら魅力発見隊代表 佐藤直

TEL 090-7100-7597

E-mail: sato@fujinomori.net



## 八王子市民吹奏楽団 ファミリーコンサート in ひの

**日時** 平成27年2月8日(日) 13:30~15:00 (開場13:00)

**場所** ひの煉瓦ホール(日野市民会館)日野駅、又は高幡不動駅からバス、もしくは日野駅から徒歩15分

**内容** 今回のテーマは、ずばり「楽しいプラス、そしてカーニバル」音楽あり、語りありの楽しいコンサートです。

あの有名なクラシックから、映画音楽に、JAZZやラテンミュージックまで、うきうき、わくわくするような音楽を集めてみました。もうすぐ春かになって感じる、うらかな日曜日の午後、ぜひ歌って踊ってください。親子で一緒になって楽しめるコンサートになるように、がんばって準備をしています。私たちと幸せなひと時を共有しませんか?

**入場料** 無料・全席自由

**【主催】** 八王子市民吹奏楽団

**【問合せ】** TEL 042-648-7346(森) E-mail: hatsui@gmail.com

URL: <http://music.geocities.jp/hachiojishiminsuisogakudan/index.html>



### 「多摩交流センターだより」の問合せ先

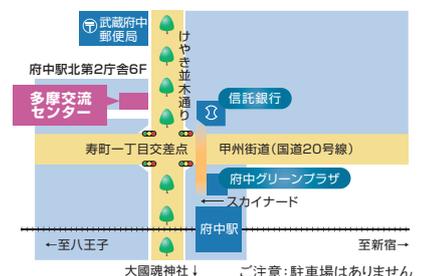
#### (公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階

TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127 Eメール tama001@tama-100.or.jp

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/> (自治調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆ 多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。





オール東京62市区町村共同事業

## みどり東京・温暖化防止プロジェクト

「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、自然環境保護及び地球温暖化防止についての普及、啓発を目的とする市区町村の自主事業に対して助成を行っています。今回は福生市の自主事業について紹介します。



福生市

### 花いっぱい運動

福生市では、毎年春と秋に、まちを花いっぱいにする植栽運動を実施しています。福生市の主要道路である『やなぎ通り』沿いに設置したプランターや、『国道16号線』の植樹ますに、春はニチニチ草、秋はビオラを植栽しました。



#### 花いっぱい運動(秋)



▲『やなぎ通り』植栽の様子

また、春と秋それぞれの植栽時に市内の各団体(町会・学校等)に花の苗を配布し、花いっぱい運動に協力していただく団体を対象にコンテストを開催しました。植え方や管理の仕方などで“キラリと光る”ものとなっている花壇などを表彰し、地域一体となった花いっぱい運動の推進を図っています。

今年の秋は、11月10日(月)に『やなぎ通り』、11月20日(木)に『国道16号線』の植栽を実施しました。「ふっさ花とみどりの会」のほか、日頃からプランターや植樹ますを管理していただいている近隣の商店等のみなさまや、横田基地有志の方がボランティアで参加してくださいました。



▲『国道16号線』植栽の様子

#### 花いっぱいコンテスト(春)

▶ 最優秀賞 学童さくらクラブ



シーナ

かれんとシーナは、みどり東京・温暖化防止プロジェクトのイメージキャラクターです。



かれん

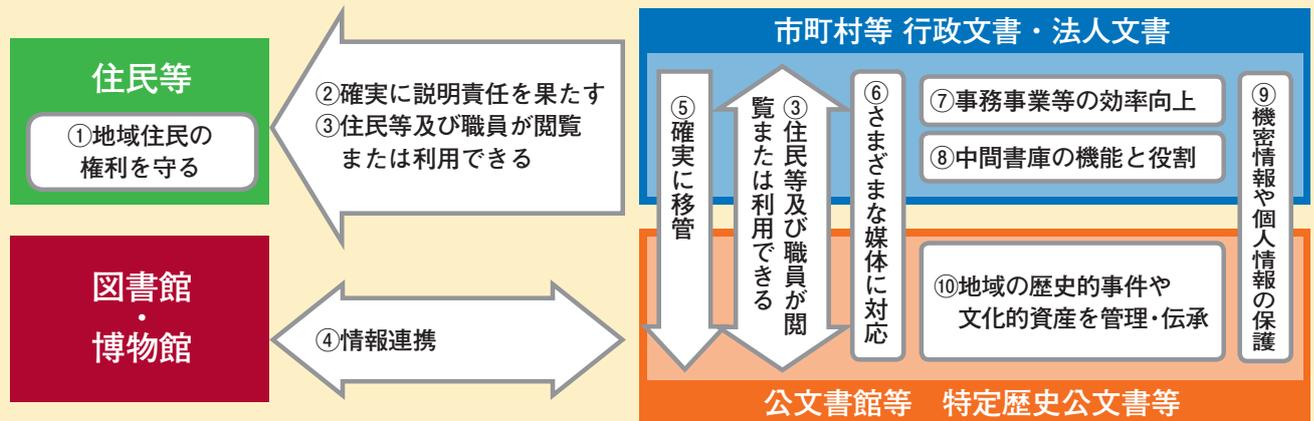
# 平成25年度 調査研究報告書の紹介

本紙5月号（No.008）で概要を紹介した平成25年度の調査報告書のうち、5件の単年度調査報告書について、隔月で詳細を紹介しています。今月号では、「市町村における公文書管理方法に関する調査報告書」を紹介します。本報告書は、当調査会ホームページ（<http://www.tama-100.or.jp/>）にてダウンロードできます。

多摩・島しょ地域市町村の公文書管理方法の実態を調査し、公文書の適正管理・運用や、公文書館機能に係る施策の検討に必要な取組を明らかにすることを目的に調査を行いました。



## 1. 行政文書及び歴史公文書の管理・運用に係る調査の視点



## 2. 市町村の公文書管理・公文書館制度のあり方についてのまとめ（概要）

### 【公文書の位置付け・公文書管理の目的等】

- ・ 文書管理規程において、公文書は「健全な民主主義を支える住民共有の知的資源である」という位置付けと定義を明確にする。
- ・ 公文書管理の目的に、「現在及び将来の住民に説明する責務を全うする」というコンセプトを取り入れる。

### 【現用文書のライフサイクル管理プロセス】

- ・ 「永年」保存を有期限化（最長 30 年）し、適正文書廃棄または公文書館（同等機能を有する施設）への移管を可能にする。
- ・ 公文書管理及び公文書館制度に関する職員研修を充実し、職員の理解を深める。
- ・ 公文書管理の実施状況に係る報告及び監査の仕組みを確立する。
- ・ 公文書管理の条例化を推進する。
- ・ 電子メールを含め、安全確実な電子文書管理のための方策立案・ルール化を促進する。

### 【歴史公文書の移管・保存・利用のプロセスについて】

- ・ 歴史公文書が確実に公文書館（同等機能を有する施設）へ移管できる評価・選別の仕組みを確立する。
- ・ 公文書館をできる限り設置する。それができない場合でも、適切な部門・施設等に公文書館機能を持たせ、歴史公文書の保存・管理・利用を確実にする。
- ・ 公文書管理及び公文書館運営を担当する専門人材の育成を図る。

# 自治調査会の調査研究を振り返る ～最近のトピックスとの関わりなど～

当調査会では、昭和61年の設立以来、200件を超える調査研究を実施してきました。対象テーマは、多摩・島しょ地域の39市町村からの要望やその時代の行政課題を踏まえつつ、少し先の将来に重要課題となると考えられる事項を選定しています。

報告書は毎年度、都内全市町村へ送付し、多くの事業の参考などに役立てられています。活用方法は各市町村に委ねられています。それは各市町村が置かれたそれぞれ異なる状況に応じ、実情に即した施策を実施する必要があるからです。

本稿では、当調査会の過去の調査研究の一部を振り返り、最近のトピックスとの関わりや、今後の当調査会が何を目標として調査研究を行っていくのかということについて「市民協働」を題材に紹介します。

## 1. 「公園」を舞台とした地域再生 ～あなたが主役の「好縁」づくり～（平成20年度）

平成20年度に実施した標記調査研究では、当時の公園の状況や課題などを市民アンケート等により調査し、地域再生に向けた公園のあり方を提案しました。

そのなかで挙げたポイントの一つが「市民協働」です。市民協働とは、「行政や地域に関わる人々などが互いに協力し合って、地域の暮らしのニーズなどに対応すること」などとされています。公園の管理においても、自治体からの支援のもと、花壇の世話など公園の保全愛育を市民が行うといった活動が実在していました。

しかし、報告書に「市民協働による参加型管理という第三の道」と記述されているように、当時、「市民協働」の本格的な普及・定着はこれから、という時期でした。



## 2. 市民活動団体等との協働のススメ ～協働のまちづくりの成功の秘訣～（平成21年度）

続く平成21年度に実施した標記調査研究では、自治体と市民団体等の協働の進め方や、行政からの支援策のあり方などをまとめました。

自治体と市民活動団体等には、各々異なる立場や特性があり、役割分担の設定などはなかなか難しい作業です。報告書では様々な課題に対する留意点を、①準備②出会い③合意形成④実施⑤評価(検証)の段階別にQ&A方式でまとめています。

その後5年近くが経過し、掲載データなども少し古いものとなりました。報告書の配布も完了し、取り組みのバトンは市町村の現場に渡っていきました。



## 3. 市民協働について ～地域力の結集がもたらすもの～（平成26年度）

さらに、当調査会の所在する府中市では、平成26年度に市制施行60周年を迎えたことを記念する10月の式典において、「市民協働都市宣言」が行われました。このように各地で定着してきた感のある「市民協働」ですが、標記調査においては改めて市民協働の価値などを考察しました。一方で、まだまだ自治体側の支援体制や施策の充実が必要という課題も調査によって浮き彫りになりました。

## 4. 今後に向けて

今や市町村行政における重要なキーワードとなった「市民協働」は行政サービスの補完ではなく、地域社会に意識変革を促し、地域の課題解決力を高めるものといえます。本稿をお読みの皆様にも改めて市民協働の意義などについて考えて頂けたら、その一つひとつが良い市町村行政につながっていくと思います。

あるテーマが社会的に注目されるまでには少し時間がかかるものです。当調査会としては、現場である市町村がタイムリーに施策を展開できるように、「一歩先を見据えて」課題を発見し、調査研究に取り組んでいきたいと考えています。

※本稿に紹介された調査報告書は、いずれも当調査会ホームページ (<http://www.tama-100.or.jp/>) にてダウンロードできます。

# 調査研究報告書の活用に関するアンケート結果

当調査会は、毎年度、各種の調査研究報告書を作成し、多摩・島しょ地域市町村等に配布するとともに、ホームページ上(<http://www.tama-100.or.jp/>)でも広く公開しています。

この報告書が自治体の現場でどのように活用されているのかについて把握し、今後の調査研究に役立てるため、平成26年7月に多摩・島しょ地域の39市町村を対象としたアンケート調査を実施しました。

## ○ 9割以上の市町村で事業に役立てられています

調査研究結果の活用状況を見ると、「毎年度、事業実施の参考にしてている」、「その年の調査研究テーマによって、個別の行政課題と合致する場合には参考にしてている」を合わせ、計36団体(92.3%)が調査研究結果を事業に活用していると回答しています(図1参照)。

## ○ 検討の初期段階から報告書が活用されています

平成25年度1年間の活用事例をみると、「基礎的な情報、データ等として参考にした」という回答が、21団体(53.8%)を占めています(図2参照)。

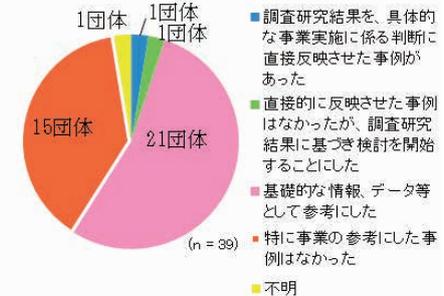
多く活用された報告書を見ると、「市町村の総合計画のマネジメントに関する調査研究報告書」が基本計画の策定準備等に、「指定管理者制度の運用に関する実態調査報告書」が指定管理者の公募や運用見直しに役立てられています(いずれも平成24年度発行)。当調査会は近い未来に大きな課題となるようなテーマを選定し調査研究を行っていますが、全体的に近年発行の報告書が検討の初期段階で利用されていることが回答から伺えます。

当調査会では、今回の調査結果を踏まえつつ、引き続き市町村行政に資する調査研究に取り組み、その成果の還元を図っていきます。

(図1) 調査研究結果の活用



(図2) 平成25年度の活用事例



## 編集後記

- 2015年あけましておめでとうございます。

オリンピックまであと5年、いよいよカウントダウンになってきました。

今年も、当調査会は東京の市町村のシンクタンクとして調査研究やシンポジウム、市町村共同事業、広域的市民活動支援など様々な事業を通じて多摩・島しょ地域のお役に立てるよう努めて参ります。

- 昨年末には急な衆議院の解散・総選挙があり、あわただしい年の瀬になりました。地方は国政の動向にかかわらず、日々、市民に寄り添う地方行政に邁進して行かなければならないと思います。
- 今年は、その地方行政の大きな流れを決める4年に一度の統一地方選挙が4月に予定されており、多摩・島しょの自治体においても多くの首長や議員が選ばれます。

昨年話題になった某県議のような人を選んでしまっただけは地域全体が恥ずかしい思いをしますから、住民のひとりとして大切な一票を無駄にせず、しっかり投票して地域の振興・発展に繋げていきたいものです。

- 話はかわりますが、本号から「とっておきスポット」を紹介する「わたげ」のキャラクターが登場します。

多摩と島にフワリフワリ飛んで行って、あまり知られていないけれど魅力のある地域の穴場を「わたげ」がご紹介します。多摩・島しょ39の自治体には、まだまだ皆さんがご存じないとっておきのスポットや食べ物、特産物がたくさんあります。気軽に出かけて新たな発見をしてみてください。

- 本紙「ぐるり39」も2回目のお正月を迎えました。編集者一同、より一層、皆様のお役に立つ情報をお届けできるよう内容の充実に努めて参りますので、本年もどうぞよろしくお願いいたします。



今年から、わたげのボクが多摩と島のいろんなところをみなさんにご紹介しま〜す



(M.N.)



# とっておきスポット

“ココ”  
ご存じ  
ですか?

## 第4回 三鷹市

三鷹市といえば、表紙の三鷹の森ジブリ美術館を連想するかもしれないけど、今回は太宰治文学サロンを紹介するよ。



太宰治といえば、日本近代文学の代表的作家だよ。38歳という短い生涯の中で、昭和14年9月からの約7年半は、三鷹の下連雀で家族と一緒に過ごしていたんだって。三鷹はまさに、太宰の創作活動拠点だったんだね。

太宰治文学サロンは、平成20年の没後60年と翌年の生誕100年を記念して、平成20年3月に開設されたんだ。短編小説「十二月八日」に登場する、太宰が通った酒店（伊勢元）の跡地であって、開設以来10万人近くの方が訪れているんだよ。

このサロンでは、定期的に企画展示が開催されていて、直筆原稿や初版本、初出雑誌など様々な貴重な資料や解説文を紹介しているよ。他にも三鷹での太宰の写真やゆかりの場所の地図などがパネル展示されているんだ。館内は、太宰が訪れた銀座のバー『ルパン』の店内をイメージしてカウンターも設置されていて、ここに座って文献の閲覧などもできるよ。

10:30～16:30の間はガイドボランティアが常駐していて、太宰の足跡や三鷹についての展示ガイドも行っているんだ。土日祝日は要望に応じて三鷹駅周辺の太宰ゆかりの場所への案内もしてくれるんだって。みなさんもぜひ、ふわっと行ってみたい！



### 【現地案内】

#### 太宰治文学サロン（入場無料）

三鷹市下連雀3-16-14 グランジャルダン三鷹1階

（三鷹駅南口徒歩3分）

TEL：0422-26-9150

開館時間：10:00～17:30

休館日：月曜日・年末年始

（12月29日～1月4日）

※月曜日が休日の場合は開館し、翌日と翌々日を休館

#### みたか観光案内所（みたか都市観光協会）

では、みたか散策マップを無料配布しているんだ。三鷹の魅力ガイドする観光協会オリジナルマップだよ。太宰治の足跡コースを含む、エリア別・テーマ別にお薦め7コースが掲載されるよ。

TEL：0422-40-5525

URL：<http://kanko.mitaka.ne.jp>



【情報・写真提供】三鷹市生活環境部コミュニティ文化課・生活経済課、NPO法人 みたか都市観光協会

NPO法人  
**みたか都市**  
観光協会  
MITAKA-City  
Tourism Association

【発行日】平成27年1月1日

【発行】公益財団法人 東京市町村自治調査会

【責任者】石井恒利

〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1 東京自治会館4F TEL 042-382-0068

ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>

